

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年2月28日(2013.2.28)

【公表番号】特表2009-523730(P2009-523730A)

【公表日】平成21年6月25日(2009.6.25)

【年通号数】公開・登録公報2009-025

【出願番号】特願2008-550444(P2008-550444)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/58	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	13/08	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/16	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)
A 6 1 P	31/22	(2006.01)
A 6 1 P	31/20	(2006.01)
A 6 1 P	9/04	(2006.01)
A 6 1 P	33/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/10	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 P	17/04	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	36/53	(2006.01)
C 0 7 J	73/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/58	
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 P	1/18	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 P	11/06	
A 6 1 P	37/08	

A 6 1 P 31/04
A 6 1 P 9/10
A 6 1 P 13/08
A 6 1 P 11/00
A 6 1 P 31/16
A 6 1 P 31/18
A 6 1 P 31/22
A 6 1 P 31/20
A 6 1 P 9/04
A 6 1 P 33/04
A 6 1 P 31/10
A 6 1 P 17/02
A 6 1 P 17/04
A 6 1 P 9/00
A 6 1 P 25/00
A 6 1 P 27/02
A 6 1 P 1/02
A 6 1 P 9/10 1 0 3
A 6 1 P 19/02
A 6 1 P 29/00 1 0 1
A 6 1 P 37/02
A 6 1 P 37/06
A 6 1 P 3/10
A 6 1 K 45/00
A 6 1 K 35/78 Q
C 0 7 J 73/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年12月26日(2012.12.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

セプシス、敗血症 (septicemia) 及び／又は内毒素性ショックを有するか、もしくは危険性がある哺乳類を処置するための薬剤を製造するための水溶性タンシノンの使用であって、該水溶性タンシノンは、タンシノン I、タンシノン I I A およびクリプトタンシノンよりも水溶性にする極性部を含み、該極性部が、スルホン酸基、アミノ基、ニトロ基、カルボキシル基又はリン酸基である、該使用。

【請求項 2】

前記水溶性タンシノンが、天然に存在するタンシノンのスルホン酸ナトリウム誘導体である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記水溶性タンシノンは、タンシノン I、タンシノン I I A、又はクリプトタンシノンが前記極性部を有する化合物である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】

前記水溶性タンシノンが、タンシノン I I A スルホン酸ナトリウムである、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 5】

前記哺乳類がヒトである、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】

前記哺乳類がセプシスを有するか、もしくは危険性がある、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 7】

前記哺乳類が敗血症 (septicemia) を有するか、もしくは危険性がある、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 8】

前記哺乳類が内毒素性ショックを有するか、もしくは危険性がある、請求項 1 に記載の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

本発明はさらに、セプシス、敗血症 (septicemia)、ショック、及び／又は内毒素性ショックの危険性のある哺乳類を処置する方法を対象とする。当該方法は、内毒素性ショックの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、哺乳類をタンシノン I I A スルホン酸ナトリウムで処置することを含む。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

本発明はさらに、セプシス、敗血症 (septicemia) 及び／又は内毒素性ショックを被る哺乳類を処置する方法を対象とする。当該方法は、セプシス、敗血症、及び／又は内毒素性ショックの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、精製タンシノンを哺乳類に投与することを含む。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明はまた、セプシス、敗血症 (septicemia) 及び／又は内毒素性ショックを被る哺乳類を処置する付加的方法を対象とする。当該方法は、セプシスの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、哺乳類を *Salvia miltiorrhiza* 又はその抽出物を含む組成物で処置することを含む。当該方法では、組成物は *lignum dalbergiae odoriferae* を含まない。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

炎症性サイトカインによって媒介され、且つ本発明を利用して有効的に治療される病気の例としては、好ましくは、虫垂炎、消化性潰瘍、胃潰瘍若しくは十二指腸潰瘍、腹膜炎、膀胱炎、潰瘍性、偽膜性、急性若しくは虚血性の大腸炎、憩室炎、喉頭蓋炎、アカラシア

、胆管炎、胆嚢炎、肝炎、クローン病、腸閉塞症、腸炎、ホイップル病、喘息、アレルギー、アナフィラキシーショック、免疫複合体疾患、臓器の虚血、再灌流傷害、臓器の壊死、花粉症、セプシス、敗血症 (septicemia)、内毒素性ショック、悪液質、異常高熱症、好酸球性肉芽腫、肉芽腫症、サルコイドーシス、敗血性流産、精巣上体炎、膣炎、前立腺炎、尿道炎、気管支炎、肺気腫、鼻炎、嚢胞性線維症、肺炎、肺塵症、肺肺炎、細気管支炎、咽頭炎、胸膜炎、副鼻腔炎、インフルエンザ、呼吸器合胞体ウィルス感染、ヘルペス感染、H I V感染、B型肝炎ウィルス感染、C型肝炎ウィルス感染、播種性菌血症、デング熱、カンジダ症、マラリア、フィラリア症、アメーバ症、包虫嚢胞、火傷、皮膚炎、皮膚筋炎、日焼け、じんま疹、いぼ、膨疹、血管炎、脈管炎、心内膜炎、動脈炎、アテローム性動脈硬化症、血栓性静脈炎、心外膜炎、心筋炎、心筋虚血、結節性動脈周囲炎、リウマチ熱、アルツハイマー病、セリアック病、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、脳梗塞、脳卒中、ギラン・バレー症候群、神経炎、神経痛、脊髄損傷、麻痺、ブドウ膜炎、関節炎、関節痛、骨髄炎、筋膜炎、パジェット病、痛風、歯周病、リウマチ様関節炎、滑膜炎、重症筋無力症、甲状腺炎、全身性エリテマトーデス、グッドパスチャー症候群、ベーチェット症候群、同種移植の拒絶反応、移植片対宿主病、I型糖尿病、強直性脊椎炎、バーガー病、ライター症候群、又はホジキン病である。好ましくは、上記症状は、虫垂炎、消化性潰瘍、胃潰瘍若しくは十二指腸潰瘍、腹膜炎、脾炎、潰瘍性、偽膜性、急性若しくは虚血性の大腸炎、肝炎、リウマチ様関節炎、クローン病、喘息、アレルギー、アナフィラキシーショック、臓器の虚血、再灌流傷害、臓器の壊死、花粉症、セプシス、敗血症 (septicemia)、内毒素性ショック、悪液質、敗血性流産、播種性菌血症、火傷、アルツハイマー病、セリアック病、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群、脳梗塞、脳卒中、脊髄損傷、麻痺、同種移植の拒絶反応、及び移植片対宿主病である。最も好適な実施形態では、上記症状は花粉症、セプシス、及び／又は内毒素性ショックである。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

本方法はまた、第2の抗炎症剤を哺乳類に投与することをさらに含み得る。例としては、NSAID、サイトカイン阻害剤、サリチル酸塩、COX阻害剤、COX-2阻害剤、又はステロイドが挙げられるが、これらに限定されない。特に好ましい方法では、症状はセプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックであって、第2の処置は、ムスカリン作動薬、アドレノメデュリン、アドレノメデュリン結合タンパク質、乳脂肪球上皮成長因子V I I I、活性プロテインC、又は α_{2A} -アドレナリン拮抗薬の投与である。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

最も好ましくは、症状はセプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックであって、哺乳類はヒトであり、且つタンシノンI I Aスルホン酸ナトリウムである。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

好ましくは、タンシノン[®]は水溶性タンシノンであり、より好ましくは、天然に存在するタンシノンのスルホン酸ナトリウム誘導体であり、最も好ましくは、タンシノン I I A スルホン酸ナトリウムである。任意の哺乳類が当該方法の被験体となり得る。最も好ましくは、症状はセプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックであって、哺乳類はヒトであり、且つタンシノンはタンシノン I I A スルホン酸ナトリウムである。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0042

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0042】

本発明は、セプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックの危険性がある哺乳類を処置する方法をさらに対象とする。当該方法は、内毒素性ショックの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、哺乳類をタンシノン I I A スルホン酸ナトリウムで処置することを含む。処置の有効性を決定するために、任意の内毒素性ショックの生理的影響を測定することができる。ここで、好ましい生理的影響はH M G B 1 放出、T N F 放出、酸化窒素 (N O) 放出、又は致死性セプシスである。最も好ましくは、哺乳類はヒトである。

【誤訳訂正10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0043

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

本発明は、セプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックを被る哺乳類を処置する方法をさらに対象とする。当該方法は、セプシス、敗血症、及び／又は内毒素性ショックの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、精製タンシノンを哺乳類に投与することを含む。当該方法に有用なタンシノンは、例えば、タンシノン I、タンシノン I I A、又はクリプトタンシノンである。より好ましいタンシノンは水溶性タンシノンであり、最も好ましくは、タンシノン I I A スルホン酸ナトリウムである。

【誤訳訂正11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

本発明はまた、セプシス、敗血症 (septicemia)、及び／又は内毒素性ショックを被る哺乳類を処置する付加的方法を対象とする。当該方法は、セプシスの生理的影響を低減又は防止するために効果的な様式で、哺乳類を *Salvia miltiorrhiza* 又はその抽出物を含む組成物で、処置することを含む。当該方法では、組成物は *lignum dalbergiae odoriferae* を含まない。組成物は *Salvia miltiorrhiza*、又は、好ましくは、*Salvia miltiorrhiza* の抽出物を含んでもよい（実施例を参照）。好ましい抽出物は有機成分を含むが、その有機成分の少なくとも5重量%がタンシノンである。より好ましくは、有機成分の少なくとも10重量%、さらに好ましくは、少なくとも25重量%、いっそう好ましくは、少なくとも50重量%、又は少なくとも80重量%がタンシノンである。最も好ましくは、有機成分の少なくとも95重量%がタンシノンである。

【誤訳訂正12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

細胞は、好ましくは、過剰NO産生により媒介される疾患を有する、又はその危険性のある、生きている哺乳類の一部である。そのような疾患の例としては、ショック、回腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、喘息、気管支炎、オキシダント誘導性肺外傷、慢性閉塞性気道疾患、角膜ジストロフィー、高眼圧症、トラコーマ、オンコセルカ症、網膜炎、ブドウ膜炎、交感性眼炎、眼内炎、歯周炎、関節炎、敗血症性関節炎、変形性関節症、慢性関節リウマチ、結核、ハンセン病、糸球体腎炎サルコイド、ネフローゼ、硬化性皮膚炎、日焼け、乾癬、湿疹、筋萎縮性側索硬化症、硬化症、認知症、例えばエイズ関連神経変性、アルツハイマー病、脳脊髄炎、ウイルス性脳炎若しくは自己免疫性脳炎、免疫複合体性脈管炎、全身性エリテマトーデス、虚血性心疾患、心不全、心筋症、副腎不全、高コレステロール血症、アテローム性動脈硬化症、骨粗鬆症、子癇前症、子癇、尿毒症合併症、慢性肝不全、卒中、脳虚血、嚢胞性線維症、結核、悪液質、虚血再かん流、血液透析に関連する健康状態、糸球体腎炎、再狭窄、ウイルス感染の炎症性続発症、低酸素症、高圧酸素による痙攣及び中毒、認知症、シドナム舞踏病、パーキンソン病、ハンチントン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多発性硬化症、癲癇、コルサコフ病、脳血管障害に関連する精神遅滞、NO媒介性脳外傷及び関連の続発症、虚血性脳浮腫（脳卒中）、疼痛、片頭痛、嘔吐、免疫複合体病、免疫抑制剤（immunosuppressive agent）として、急性同種移植拒絶反応、又は癌が挙げられるが、これらに限定されない。ここで、最も好ましい疾患は、セプシス、敗血症（septicemia）、及び／又は内毒素性ショックである。最も好ましくは、哺乳類はヒトである。

【誤訳訂正13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

当該方法に関して、好ましい疾患は、ショック、回腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、喘息、気管支炎、オキシダント誘導性肺外傷、慢性閉塞性気道疾患、角膜ジストロフィー、高眼圧症、トラコーマ、オンコセルカ症、網膜炎、ブドウ膜炎、交感性眼炎、眼内炎、歯周炎、関節炎、敗血症性関節炎、変形性関節症、慢性関節リウマチ、結核、ハンセン病、糸球体腎炎サルコイド、ネフローゼ、硬化性皮膚炎、日焼け、乾癬、湿疹、筋萎縮性側索硬化症、硬化症、認知症、例えばエイズ関連神経変性、アルツハイマー病、脳脊髄炎、ウイルス性脳炎若しくは自己免疫性脳炎、免疫複合体性脈管炎、全身性エリテマトーデス、虚血性心疾患、心不全、心筋症、副腎不全、高コレステロール血症、アテローム性動脈硬化症、骨粗鬆症、子癇前症、子癇、尿毒症合併症、慢性肝不全、卒中、脳虚血、嚢胞性線維症、結核、悪液質、虚血再かん流、血液透析に関連する健康状態、糸球体腎炎、再狭窄、ウイルス感染の炎症性続発症、低酸素症、高圧酸素による痙攣及び中毒、認知症、シドナム舞踏病、パーキンソン病、ハンチントン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多発性硬化症、癲癇、コルサコフ病、脳血管障害に関連する精神遅滞、NO媒介性脳外傷及び関連の続発症、虚血性脳浮腫（脳卒中）、疼痛、片頭痛、嘔吐、免疫複合体病、免疫抑制剤（immunosuppressive agent）として、急性同種移植拒絶反応、又は癌である。最も好ましくは、疾患はセプシス、敗血症（septicemia）、及び／又は内毒素性ショックである。哺乳類は、好ましくはヒトである。

【誤訳訂正14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

当該方法に関して、好ましい疾患は、ショック、回腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、喘息、気管支炎、オキシダント誘導性肺外傷、慢性閉塞性気道疾患、角膜ジストロフィー、高眼圧症、トラコーマ、オンコセルカ症、網膜炎、ブドウ膜炎、交感性眼炎、眼内炎、歯周炎、関節炎、敗血症性関節炎、変形性関節症、慢性関節リウマチ、結核、ハンセン病、糸球体腎炎サルコイド、ネフローゼ、硬化性皮膚炎、日焼け、乾癬、湿疹、筋萎縮性側索硬化症、硬化症、認知症、例えばエイズ関連神経変性、アルツハイマー病、脳脊髄炎、ウイルス性脳炎若しくは自己免疫性脳炎、免疫複合体性脈管炎、全身性エリテマトーデス、虚血性心疾患、心不全、心筋症、副腎不全、高コレステロール血症、アテローム性動脈硬化症、骨粗鬆症、子癇前症、子癇、尿毒症合併症、慢性肝不全、卒中、脳虚血、嚢胞性線維症、結核、悪液質、虚血再かん流、血液透析に関連する健康状態、糸球体腎炎、再狭窄、ウイルス感染の炎症性続発症、低酸素症、高圧酸素による痙攣及び中毒、認知症、シドナム舞蹈病、パーキンソン病、ハンチントン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多発性硬化症、癲癇、コルサコフ病、脳血管障害に関連する精神遅滞、NO媒介性脳外傷及び関連の続発症、虚血性脳浮腫（脳卒中）、疼痛、片頭痛、嘔吐、免疫複合体病、免疫抑制剤（immunosuppressive agent）として、急性同種移植拒絶反応、又は癌である。最も好ましくは、疾患はセプシス、敗血症（septicemia）、及び／又は内毒素性ショックである。哺乳類は、好ましくはヒトである。